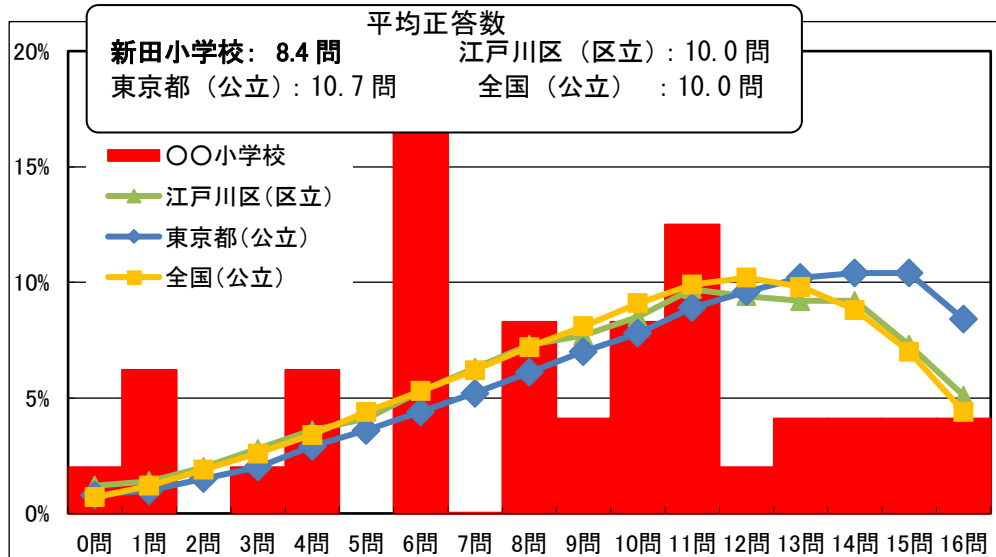


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 新田小学校

正答数分布



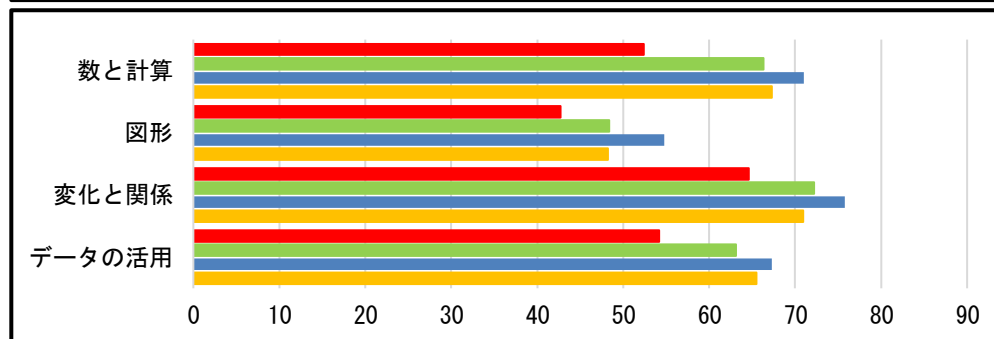
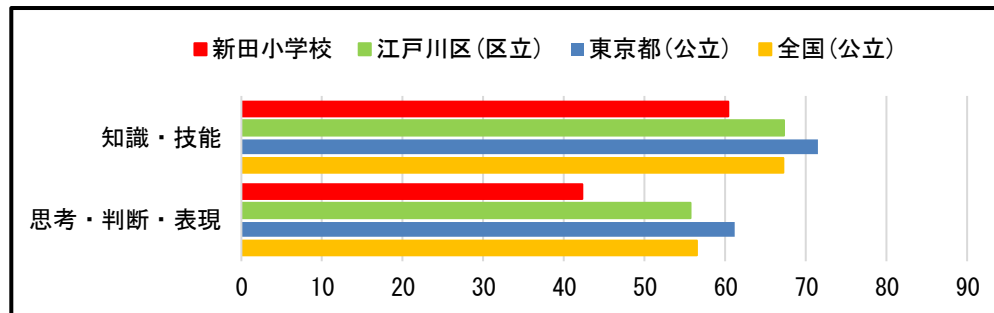
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
新田小学校	12.5	18.7	20.8	37.5
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

新田小学校	52%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	15ポイント

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

本校の正答数分布は、全国、東京都、江戸川区と比較するとA層とB層の割合が低く、D層の割合が高い傾向がある。8問目~11問目までの正答数は全国、江戸川を上回っているが、その後の正答数で差が見られる。知識・技能、思考・判断・表現ではともに課題が見られる。図形は他の数値に比べると全国・東京・江戸川の数値に近い。この結果を受け、知識・技能、思考・判断・表現の向上を図るため、児童の課題解決に向けた意識を高めた上で、自分で考え、課題解決ができる活動を設定する。表と計算では、活動の手順を明確にし、児童が自らすすんで取り組むことができる内容を設定する。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。